



01 協働事業負担金

「食」と「地域」をつなぎ神奈川から 貧困をなくすための K-Model 構築事業

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

協働部署：消費生活課、資源循環推進課、次世代育成課、子ども家庭課、生活援護課、住宅計画課

活動

食支援の新たなネットワーク 「ビーバーリンク」を県内全域で

事業1 多機関連携による K-Model 推進事業

生活困窮者等支援と食品の有効活用として、フードバンクや子ども食堂・支援団体等と持続可能なネットワーク「ビーバーリンク」を構築しました。県内拠点で定期的に青果・冷凍品を引渡し、啓発活動として「フード&日用品ドライブ」の実施、K-Modelで地域資源の有効活用とセーフティネット、行政・NPO・企業等の各機関と連携して地域課題の解決を目指しました。

事業2 地域フードバンク等支援事業

地域のフードバンクや子ども食堂に、食品提供の周知を図りました。また、企業等に対しては、運営のためのアドバイスや相談に対応しました。

食料支援が必要な方には、支援体制のネットワークを構築し、地域行政や団体との情報交換の機会の提供や、空き家等を利用した居場所づくりを進めました。

Check !

☞ <事業基本データ>

事業分野 まちづくりの推進

実施期間 2017~2021 年度

負担金額 計 20,876 千円

成果

啓発活動や他団体等へのネットワークづくりを進める

1. 当事業で構築した新たな食支援の仕組みである「ビーバーリンク」は県内に 14 か所、登録 62 団体、食品支援をする企業、金融機関等 24 団体、保管倉庫は県内 13 か所となりました。また、企業との協働の取組として「もったいないフード&日用品ドライブ」企画を4回実施し、集まった食品は子ども食堂等へ提供しました。



◀ パルシステムグループの青果センターにて。この一部が支援に回る。

2. 地域のフードバンクや子ども食堂の運営支援、食品ロス削減の学習会、空き家活用に取り組みました。

3. 2021 年度取扱実績では、冷蔵品 9,590 kg、冷凍品 6,499kg。冷蔵・冷凍保管ができる拠点ができたことにより、他では引き受けできなかった食品も必要としている方に渡せるようになりました。

4. 防災備蓄品等 60,777 kgは、県施設や企業の各拠点に最寄りのビーバーリンク拠点を通じて回収引渡しを行い、廃棄することなく活用することができました。

5. 登録団体からの要望により、子ども・女性衣料、学用品、マスク等約 850 点の配布を行いました。

6. 空き家活用では茅ヶ崎市の空き家活用マッチング制度で空き家を活用した取組を3年間実施し、地域の活動団体と連携したものの、コロナまん延と重なったため、やむを得ず、一旦休止としました。



▲ ビーバーリンクでの仕分けの様子



▲ 一般企業から食品提供されてきたもの

協働

この事業では、県主催のイベントでのフードドライブ実施や団体の活動の情報発信等、エシカル消費の観点から食品ロス削減を中心に協働してきました。団体では、県や市町村、民間団体等と連携し、地域課題の解決に向けて取組を進めており、さらなる活動の展開に期待しています。引き続き、団体と協働して、情報発信等を行っていきます。
(消費生活課)



担当者の
コメント

事務局次長
六角 薫 さん

県の6つの協働部署と連携できたことで、地域から信頼性を得たことは大きな力になりました。ゼロからスタートした事業も、県内全域に広がり、新たなことへのチャレンジにも、基金 21 による継続的な資金面の応援があったことで、社会的活動を継続するための基盤を作ることが出来ました。協働部署以外の県の部署ともつながり、共に地域課題を解決していくという仲間とも出会うことが出来ました。

NPO
法人

特定非営利活動法人
セカンドリーグ神奈川

代表者 理事長 市村 あつ子

設立 2012 年 10 月

住所 〒222-0033
横浜市港北区新横浜3-18-16
新横浜交通ビル

活動紹介 心豊かな地域社会をつくるために、人びとやコミュニティ、行政に働きかけて、社会的価値のある活動や事業の中間支援をしています。地域課題に向き合う個人・企業・行政からの相談に応じ、解決のための縁結びを行っています。

02 協働事業負担金



江の島セーリング魅力発見プロジェクト

特定非営利活動法人湘南港マリンセンター
協働部署：セーリング課（スポーツ課）

活動

Sailing Open Access 誰もが気軽に楽しめるセーリング

【Sailing Open Access】

- JAZZ & SAIL は江の島ヨットハーバーにおいて一流のジャズマンたちが、オリンピック選手へのエールを音楽で、セーラーからはヨットの魅力を語るといった異色のコラボイベントを実施しました。
- オーストラリアとフランスチームと交流しました。オーストラリアの選手からは海上指導を受け、フランスチームとは文化交流を行いました。男子470級では、オーストラリアは金メダルを取りました。
- 東京2020大会に向けた展示では、かながわ県民センターにおいてオリンピックやセーリングレースの解説パネルの展示と海で回収された海洋ゴミによって作成されたヨット展示を行いました。
- 海洋環境の現状を調査し、パネルやパンフレットを作成し、展示しました。
- 東京2020大会におけるレガシーの発信としてオリンピック史上稀有な2回のオリンピックで同一ハーバーが使用されたという歴史を県民に知っていただくためパネルやパンフレットを作成しました。

【Sail Challenge】

- セーリングをより多くの人に知っていただくためセーリング競技解説ビデオを作成しました。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 学術、文化、芸術又はスポーツの振興

実施期間 2019,2021 年度

負担金額 計 6,828 千円

- 障がいのある方を対象に「Enjoy Sailing」を実施し、ALSの方も介助を受け、海面に出てセーリングを楽しみました。これは2019年、2021年両年で実現しました。
- 県民に体験やレース観戦機会を提供しました。



▲ JAZZ & SAIL イベント



▲ フランスチームとの交流イベント

成果

Sail Challenge 新しいセーリングネットワーク構築

期間中、大規模なイベントは5回実施し、海洋環境のパネル展やレクチャーは、月1～2回、全体で10回程度実施出来ました。第1期では、「JAZZ & SAIL」と題して音楽とスポーツのマッチングを試みるイベントを実施しました。コロナ感染者が増加した第2期においては、積極的に人を集めるイベントを控えましたが、折々にパネル展やパンフレット配布などを実施しました。海洋環境、特にマイクロプラスチックゴミはタイムリーな話題だったため、セーラーも関心を持って活動に取り組んでいる様子を知ってもらえたことは有益でした。



▲JAZZ & SAIL チラシ



▲オリパラパネル

担当者のコメント

事務局長
三浦 由理さん

NPO としての本来の活動が東京 2020 大会の開催に伴い繁忙になったため、基金 21 事業の実施は大変な時期もありましたが、もし基金 21 と出会っていなかったら新たなネットワークを広げる機会は永遠になかったらと思う、感謝しています。

また、神奈川県とのパートナーシップ事業は発注者、受託者という上下関係ではなく、フラットな関係構築を可能にし、今後もお互いに助け合って神奈川県の海洋スポーツを盛り上げていくことができるのではないかと考えています。

体験型イベントの実施には制限がありましたが、一方で接触を避けるために作成した資料は今後も展開できる内容になっており、次回のパリオリンピックセーリング競技に向けた神奈川の取組を継続して PR できると自負しています。



▲ Sailing Book

協働

セーリングの魅力を多くの方に知っていただくため、様々な事業を協働で行いました。障がいのある方対象の体験会でセーリングは誰もが楽しめるスポーツであることを伝えたこと、音楽とセーリングの紹介を掛け合わせた事業により新たな視点でセーリングの魅力を発信したことなどはいずれも大きな成果となりました。2021年には、江の島ヨットハーバーで東京 2020 大会・セーリング競技が開催されました。協働事業の成果をレガシーとして、取組が広まることを期待しています。
(スポーツ課)

NPO
法人

特定非営利活動法人
湘南港マリンセンター

代表者 会長 小阪 康司

設立 2003年12月

住所 〒251-0031
藤沢市鵜沼藤が谷 4-11-9

活動紹介 江の島を拠点に活動するセーリング団体で、青少年育成事業、生涯スポーツ事業、レース支援事業と大きく3つのグループで活動を実施し、その全体を統括しています。



子ども支援活動地域サポート推進事業

特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド

協働部署：次世代育成課、青少年課

活動 子ども支援活動を地域ぐるみで支える社会に

①子ども支援活動を支援するサポーターの創出と掘り起こし

いじめ・児童虐待・子どもの貧困をテーマにしたオンラインセミナーや、経済団体での出前講座を実施し、子どもたちの現状を広く伝えました。また、「いじめストップ！ピンクシャツデー」を推進する委員会を企業・行政・NPO 等で構成し運営しました。更に、パンフレットを活用した企業訪問や音楽フェス等での活動紹介など、社会全体で子どもたちを見守る気運の醸成を図りました。これらの取組を通じて、子ども、若者、子育てを支える地域づくりに努めました。

②子ども支援活動とサポーターとのコーディネート

ポータルサイト「こどものみらい応援ネット」の開設と運用、地域のNPOや企業が参加するワールドカフェ開催による顔の見える関係づくり、「つなぐ支える相談窓口」の設置による企業等からの支援の申出への対応など、企業等とNPO等をつなぎ、社会全体で子ども、若者、子育てを支える仕組みづくりに取り組みました。

Check !

＜事業基本データ＞

事業分野 子どもの健全育成
 実施期間 2019～2021 年度
 負担金額 計 15,202 千円



▲ ピンクシャツデーの様子



▲ こどものみらい応援ネット

成果

ポータルサイト開設で相談が広がる

子どもたちの現状を伝えるセミナーは回を重ねるごとに参加者が増え、経済団体からの紹介を受けるなどして実施した出前セミナーでは、参加した企業が、子ども食堂ネットワークに参画するなどの具体的なサポーター創出につながりました。

また、パンフレットなどを活用した企業訪問等により、ピンクシャツデーに参加する企業や団体、子ども支援団体への物品の提供などの問合せも増えています。

このほか、当事業で開設したポータルサイトを検索し、当団体への問合せにつながるケースが増えており、コーディネート窓口の運用は定着しつつあります。ポータルサイトと窓口の二つの要素を運用することで、相談先としての認知度の向上や相談しやすさにつながっていると思われます。特に、大手企業からの相談が増えているのは、当事業の成果の一つと考えています。



担当者のコメント

事務局スタッフ
野北 康子さん

まとまった金額の負担金と3年継続する協働事業の仕組みにより、取組の充実や組織体制の強化を図ることができました。また、会計や報告の事務などで負荷がかかる面もありましたが、県との協働により団体の信用力が高まるとともに、協働部署との調整を通じて取組を深めることができました。コロナ禍で予定通りにいかなかった部分もありますが、様々な工夫をする契機ともなりました。いろいろな面で感謝しています。



▲ オンラインセミナーの様子

協働

様々な普及啓発の取組を通し、子ども支援活動を支援するサポーターの創出と掘り起こしを行うとともに、「つなぐ・支える相談窓口」、「こどものみらい応援ネット」の運用により、企業等とその支援を必要とする活動団体等をつなぐコーディネートが進みました。今後もさらに子ども支援活動を地域ぐるみで支える社会づくりが進んでいくことが期待されます。

(次世代育成課)

NPO
法人

特定非営利活動法人
神奈川子ども未来ファンド

代表者 理事長 坂井 雅幸

設立 2003年 4月

住所 〒231-0001
横浜市中区新港2-2-1
横浜ワールドポーターズ6F
NPO スクウェア

活動紹介 神奈川の子育ち・子育てを社会で支えるための市民基金です。寄付金を原資とするNPO等への助成、子どもたちの現状を伝えるセミナー、いじめストップの地域づくりなどに取り組んでいます。

04 補助金



親子きつおん交流会事業

特定非営利活動法人よこはま言友会

活動

きつおん 吃音をもつ子どもと保護者の サポート

[目的]

吃音をもつ子どもたちと保護者を対象に講演や話し合いを行い、各種イベントを通じて、吃音についての正しい理解の普及・啓発と情報提供、不安軽減のサポートをしています。

[概要]

事業1では、吃音をもつ子どもたちと保護者を対象としたイベント「親子きつおん交流会」を開催し、広く県民に吃音症に対する正しい理解の啓発と吃音をもつ子どもたちに楽にどもる方法、どもっていても安心して話せる場を提供しました。

事業2では、神奈川県内、ことばの教室を訪問し、当事者の子どもと保護者をサポートしました。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 子どもの健全育成

実施期間 2019～2021 年度

補助金額 計 210 千円



▲ 子どもたちと保護者懇談会の様子

成果

コロナ禍でも、オンラインとのハイブリッドで事業を実施

事業1「親子きつおん交流会」

2018年に「親子きつおん交流会」のテスト開催を行い、吃音をもつ子どもたちと保護者に対するサポートのニーズがある事を確認しました。2019年から基金21の補助金で3年間で4回の「親子きつおん交流会」を横浜・相模原・小田原・オンラインで開催することができ、延べ680名の参加がありました。

交流会を継続することにより、会の目的に賛同していただける方も増え、会員数も2018年から15名ほど増え、会費増により「親子きつおん交流会」の2022年からの自主開催のめどもつきました。

成果として参加者の感想を載せます。

- ・自分以外の吃音をもっている人と話すのははじめてで、良い機会になりました。
- ・同じ悩み？吃音をもっている人に会えて安心しました。



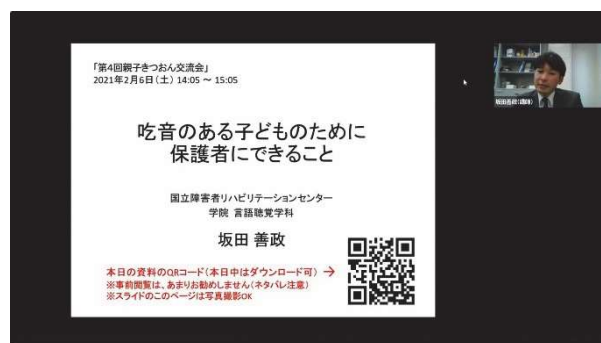
担当者のコメント

理事長
中村 則男さん

弊会は申請した助成金額が(70千円/年)と少なく、少額過ぎて逆に審査が通るか心配いたしましたが、補助を頂きました。小さな内容でも基金21に申請することにより、「こう出来たらいいね」との夢物語の思いが具体化し現実化しますよ。

事業2「ことばの教室訪問」

2019年は予定の3校学校訪問を実施できましたが、2020年～2021年はコロナ禍により、学級訪問ができなくなり、やむなく事業を中止しました。



▲「親子きつおん交流会」オンラインの様子

NPO
法人

特定非営利活動法人
よこはま言友会

代表者 理事長 中村 則男

設立 1994年 8月

住所 〒238-0311
横須賀市大田和 2-19-21

活動紹介 当団体は吃音者の自助会です。県内でイベントを開催したり、川崎市中部身体障害者福祉会館とかながわ県民センターで毎月、例会や改善トレーニング部を開催しています。見学自由です。